

薄葉 満：オソレヤマオトコイ（カヤツリグサ科）の新産地

970-8002 福島県いわき市

Mitsuru USUBA: New Localities of *Schoenoplectiella* × *osoreyamensis* (Cyperaceae)

Iwaki-shi, Fukushima, 970-8002 JAPAN

E-mail: qquf3fw9@coffee.ocn.ne.jp

(Accepted on August 25, 2020)

Summary: *Schoenoplectiella* × *osoreyamensis* (M.Kikuchi) Hayasaka, a putative hybrid between *S. orthorhizomata* (Kats.Arai & Miyam.) Hayasaka and *S. triangulata* (Roxb.) J.Jung & H.K.Choi, hitherto recorded only from Aomori Pref., northernmost Honshu, was newly recorded from Kitashiobara-mura, Fukushima Pref. and Sakata-shi, Yamagata Pref., in northern Japan. Kitashiobara-mura is the southernmost locality of this hybrid species. It is similar to *S. ×trapezoidea* (Koidz.) J.Jung & H.K.Choi. but distinguished from it by the rather thick and tender culms, many spikelets per inflorescence, and long tepals.

ホソガタホタルイ属 *Schoenoplectiella* Lye のオソレヤマオトコイ *S. ×osoreyamensis* (M.Kikuchi) Hayasaka は、Kikuchi (1961) によって当時アブラガヤ属 *Scirpus* L. に含まれていたミヤマホタルイ *Sci. hondoensis* Ohwi とカンガレイ *Sci. triangulatus* Roxb. との雑種 *Sci. ×osoreyamensis* M.Kikuchi として記載された。記載文では、稈の幅が 3 mm, 稈の横断面が不等辺三角形で柔らかく、3–10 個の小穂を付け刺針状花被片が小堅果よりかなり長いとされる。本雑種の方の親であるミヤマホタルイは、稈の幅が 0.8–2.5 mm で横断面は円形、1–6 個の小穂を付け刺針状花被片の長さは小堅果のおよそ 1.5 倍である。また、もう一方の親のカンガレイは、稈の幅が 3–10 mm で横断面は稜の鋭い三角形、大形の小穂を 2–25 個付け刺針状花被片は小堅果の 1.5–2 倍になる。本雑種は、図鑑等に掲載されることがなかったため、一般にはあまりよく認識されていない。分布も、基準産地である青森県の恐山 (M.Kikuchi s.n., 22 Aug. 1959, IUM) のほか、

青森県東津軽郡平内町 (K.Hosoi s.n., 24 Aug. 1990, TUS) でしか知られていなかった (Hayasaka 2002)。

筆者は、1981 年に福島県耶麻郡北塩原村、1983 年に山形県酒田市山谷新田 (旧飽海郡平田町山谷新田) の沼沢において不明のホソガタホタルイ属植物 (Fig. 1, 以下、不明植物という) を採集した。当該不明植物はその小穂の形や大きさはミヤマホタルイやイヌホタルイ *S. juncooides* (Roxb.) Lye に似ているが、稈に明らかな稜角があり、その角度がカンガレイより鈍いことから (Fig. 2a)、横断面が円形の稈を持つホソガタホタルイ属の一種とカンガレイとの雑種ではないかと考えられた。そこで、褐色の大きな果実を成熟とみなし果実の成熟率を調べたところ福島県北塩原村の個体が 61%、山形県酒田市の個体が 47% であった。また、不明植物では花粉の形や大きさが不揃いであり、さく葉標本から採取した花粉のコットンブルー染色では全体濃青色に染まったものがおおよそ半数以下であったことから (Fig. 3)、やはり交雑によって生じた個体と推定された。

不明植物は、カンガレイとホタルイ *S. hotarui* (Ohwi) J.Jung & H.K.Choi との雑種とされるシカクホタルイ (サンカクホタルイ) *S. ×trapezoidea* (Koidz.) J.Jung & H.K.Choi に最もよく似ている。しかし、不明植物は稈がより太く (中央部で 2–4 mm, 基部で 3–5 mm) 柔らかいこと、1 花序あたり的小穂数が多く (6–15 個)、刺針状花被片も長い (小堅果の 1.3–2 倍) などの点で異なる (Fig. 2b)。また、最近、織田・永益 (2015) によってカンガレイとイヌホタルイとの雑種とされたシカクイヌホタルイ *S. ×yashiroi* J.Oda & Nagam. とは、稈が不整な三角形でより太く小穂数も多いこと。その上、

標本の閲覧でお世話になった岩手大学並びに東北大学標本室キュレーターの方々，文献をいただいた越前岬水仙ランドの早坂英介博士，シカクホタルイに似た不明のフトイ属の瘦果のサンプルを拝見させていただいた横浜市こども植物園の武浪秀子氏，コットンブルー染色液を供与くださった秋田市の高田 順氏に御礼申し上げる．なお，標本は東北大学標本室 (TUS) および岩手大学標本室 (IUM) に寄贈する．

摘要

これまで青森県のみから記録されていたオソレヤマオトコイ *Schoenoplectiella* *×osoreyamensis* (M.Kikuchi) Hayasaka が新たに福島県北塩原村と山形県酒田山市山谷新田の水湿地から記録された．北塩原村は本雑種の日本における最も南に位置する生育地である．本種は，横断面が三角形の太い稈および果実の倍長の刺針状花被片を有するカンガレイと横断面が円形で細い稈および果実よりやや長い刺針状花被片を有するミチノクホタルイとの推定雑種であり，カンガレイとホタルイとの推定雑種シカクホタルイ（サンカクホタルイ）に似るが，より太く柔らかい稈および多くの小穂と長い刺針状花被片を有する点で異なる．

References 引用文献

- Arai K. and Miyamoto F. 1997. A new species of *Scirpus* ser. *Actaeogeton* (*Cyperaceae*) from Japan. *J. Jpn. Bot.* **72**: 297–300.
- Hayasaka E. 2002. Taxonomic Revision of the Genus *Schoenoplectus* (*Cyperaceae*), with Special Reference to Nutlet Micromorphology. Dr. Thesis. Biological Institute, Graduate School of Science, Tohoku University, Sendai.
- Hayasaka E. 2012. Delineation of *Schoenoplectiella* Lye (*Cyperaceae*), a genus newly segregated from *Schoenoplectus* (Rchb.) Palla. *J. Jpn. Bot.* **87**: 169–186.
- Hayasaka E., Hosojima N., Kurosawa T. 2008. The southernmost locality of *Schoenoplectus orthorhizomatus* (Kats.Arai & Miyam.) Hayasaka & H.Ohashi (*Cyperaceae*) and its distinguishing characters from *S. hondoensis* (Ohwi) Sojak. *J. Jpn. Bot.* **83**: 310–313 (in Japanese). 早坂英介, 細島尚子, 黒沢高秀 2008. ミチノクホタルイ (カヤツリグサ科) の南限産地及びミヤマホタルイからの識別形質. *植物研究雑誌* **83**: 310–313.
- Hosoi K. 2006. Ikansoku-shokubutsu [Vascular Plants] Red List. *In: Aomoriken Red List (2006 nen kaitei-zouho ban)* [Aomori Pref. Red List (2006 Revised ed.)]. pp. 8–29. Aomori Pref., Aomori (in Japanese). 細井幸兵衛 2006. 維管束植物レッドリスト. 青森県レッドリスト (2006年改訂増補版). pp. 8–29. 青森県, 青森.
- Kikuchi M. 1961. De Plants Boreali-Japonicis Observaciones II. *Ann. Rep. Gakugei Fac. Iwate Univ.* **18**(3): 131–134.
- Murata J. and Yonekura K. 2012. An Enumeration of Vascular Plants of Japan. 379 pp. Hokuryukan, Tokyo (in Japanese). 邑田 仁, 米倉浩司 2012. 日本維管束植物目録. 北隆館, 東京.
- Oda J. and Nagamasu H. 2015. Taxonomic study of *Schoenoplectiella* *×trapezoidea* (*Cyperaceae*). *J. Phytogeogr. Taxon.* **63**: 31–44 (in Japanese). 織田二郎, 永益英敏 2015. シカクホタルイの分類学的研究. *植物地理・分類研究* **63**: 31–44.
- Ohmori T. 2010. Southernmost localities of *Schoenoplectus orthorhizomatus* (Kats.Arai & Miyam.) Hayas. & H.Ohashi (*Cyperaceae*) and its habitats. *J. Jpn. Bot.* **85**: 373–376 (in Japanese). 大森威宏 2010. ミチノクホタルイの分布南限と生育立地. *植物研究雑誌* **85**: 373–376.
- Takenami H. 2011. Morphological observation of *Schoenoplectus orthorhizomatus* (Kats.Arai & Miyam.) Hayas. et H.Ohashi in Ooisawa area, Nishikawa-town, Yamagata Prefecture. *Bull. Bot. Soc. Tohoku* **16**: 69–74 (in Japanese). 武浪秀子 2011. 山形県大井沢産ミチノクホタルイの形態観察. *東北植物研究* **16**: 69–74.